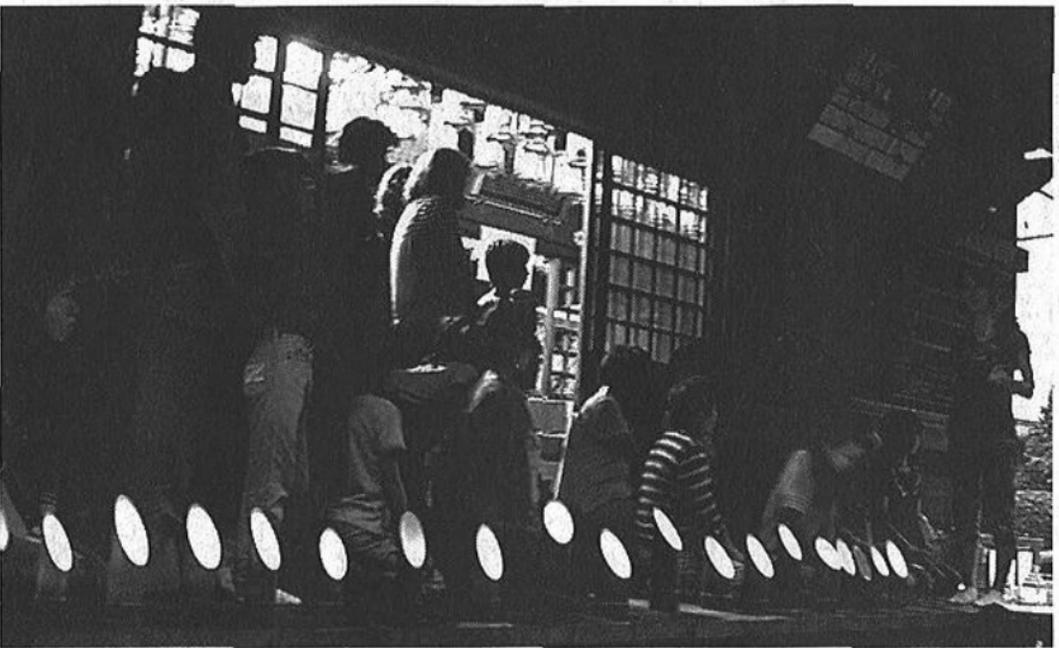


「平和の火」に囲まれ、主催者の深尾明加さん（右端）の話聴く参加者ら 九度山町で



平和の尊さかみしめ

「原爆の火」キャンドルナイト

揺らめくキャ
ンドル、静かに
流れる時間―

九度山
―。原爆の残り火「平
和の火」を囲んでのキ
ャンドルナイトが18日
夜、九度山町九度山の

高野山真言宗「慈尊院」
拝堂で開かれた。

今も守り続けられて
いる「原爆の火」の意
味を考えようと「キャ
ンドルナイトワンピ―
ス」実行委（大阪市）が

呼びかけ、きのくに国
際高等専修学校2年の
深尾明加さん（16）と母
の一絵さん（45）―九度
山町下古沢―が県内で
初めて開催。友人や住
民など約30人が参加し
た。一人一人が竹筒に
入れたキャンドルを持
ち、ランタンから採火。
明加さんが主催の思
いを話し、火の由来を
題材にした絵本「原爆
の火」を一絵さんが朗
読、同寺の安念清邦住
職（66）が命の大切さな
どについて話した。橋
本市の武川孝夫さん
（67）は手作りの角笛や
横笛などで「翼をくだ
さい」など約30曲を演
奏、静かな時の中で平
和の大切さをかみしめ
た。

「平和の火」は、福
岡県八女市の旧星野村
出身の若者が、広島
の原爆で犠牲になった叔
父の形見として持ち帰
り、同村が守り続けて
いる。深尾さん母子は
星野村の平和公園から
持ち帰った。

【上鶴弘志】